



Title	感謝を表す表現とその心理に関する日中韓対照研究
Author(s)	崔, 信淑
Citation	大阪大学言語文化学. 2000, 9, p. 3-18
Version Type	VoR
URL	https://hdl.handle.net/11094/78020
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

感謝を表す表現とその心理に関する日中韓対照研究*

崔 信淑**

日本、中国、韓国は一衣帯水の邻邦、自古以来有着悠久的友好往来的历史。这三个国家不但在文化方面有共同之处、而且在日常生活习惯方面也很相近。但是、在不同的地理环境和文化背景之下、日本人、中国人和韩国人又各自形成了自己独特的文化。

受到别人帮助时表示感谢是每个社会的最基本的生活常识。但、即使在表示最基本的生活用语的时候、日本人、中国人和韩国人的表达方式也存在很大的不同。

从笔者的留学经验来看也是如此。最初对日本人的致谢性礼貌语感到很习惯、特别是日本人在日常生活当中、常常使用歉意语来表示感谢的致谢方法经常给留学生带来困惑和误解。至于如何正确使用致谢性礼貌语直接影响人和人之间的关系、笔者认为这是由于各个国家的文化、社会规范和价值观的不同而产生的结果。

就此、笔者对在同一场景下、三国人表达感谢时的语言行为差异进行了调查。通过调查得出了以下几个重要结论。第一、表示感谢时、日本人比中国人和韩国人使用致谢性语言的次数多。而且跟中国人和韩国人相比、日本人爱用固定的致谢性语表示感谢。第二、日本人比中国人和韩国人爱使用歉意语表示感谢、但是使用歉意语时的歉意的程度却比中国人和韩国人弱。而且在本论所设定的场合当中、日本人在所有的场合对所有的人都使用歉意语、但是中国人和韩国人是在给别人添了很大麻烦时使用歉意语、给别人添的麻烦小时几乎不使用歉意语。还有对方是“老师”或“母亲”时、因为日中韩三国人对他们的认识不同、所以歉意语的使用程度出现了很大的差异。第三、在感激对方的同时、也因给对方造成麻烦而感到歉意是日中韩三国人的共

* 感谢表示及其心理の日中韩対比研究(崔 信淑)

** 大阪大学大学院言語文化研究科博士後期課程

同之处。但是在不同社会里,人们的表达方式却有很大的不同。第四,日本人常选择使用歉意语,首先和他们的社会规范与社会准则有很大关系。他们使用歉意语时,并不一定是表示真正的歉意,而是表现一种谦虚和略表感谢的心情。但是中国人和韩国人在表达感谢时使用歉意语只是在不同场合的不同心理的表现,是表现自己心情的一种手段。

以上,本论具体地阐述了日中韩三国人在表示感谢时的语言差异,而且对感谢语的表达方式起决定作用的社会因素也进行了分析。

1 はじめに

相手から恩恵を受けた場合、感謝を表す表現として感謝表現や詫び表現を使用するのは、日本語と中国語と韓国語において全く共通の現象であるようだが、実際には言葉によって、感謝表現や詫び表現の使われ方や意味合いにはずれがあると思われる。彭飛(1991)は、日本人が日常生活において頻繁に使用している「すみません」などの詫び表現について「多くの中国人にとっては、小さいことに対して言われる場合には度が過ぎた感じがするし、逆に大きなことに対しても、同じ言葉で言われる場合にはかえって不親切、物足りないというマイナスの印象を感じ、誤解を受けがちである」(P170)と述べている。これは各国の人々における感謝行為は、それぞれの国の文化、社会規範や価値観などによってずれがあるからだと思われる。

そこで本研究では、日中韓における感謝を表わす表現の使用実態を調査し、各国における感謝を表す表現の使用を規定する社会的要因について考察を試みた。

2 先行研究とその問題点

2.1 先行研究

今までの先行研究において多く取り上げられているのは、日本語の感謝に多用されている詫び表現である。これらの先行研究は大きく、日本語の感謝と詫びを扱った研究(佐久間(1983)、西原(1994)、熊取谷(1994)、生駒(1993)、小川(1995)等)と、感謝と詫びの対照言語学的比較を扱った研究(中田(1989)、三宅(1993、1994a、1994b)等)に分けて概観することが出来る。

2.2 先行研究の問題点

しかし、以上取り上げた先行研究は、本論文の観点から言えば、以下のような不十分な点を指摘することができると考えられる。

- (1) 今までの感謝を表す表現の対照研究のほとんどは、その慣用表現のみを取り上げているだけで、それ以外の表現についてはほとんど言及していない。
- (2) 先行研究におけるアンケート項目は、相手の設定と場面設定が統一されていない。
- (3) 感謝と詫びの心理状態の調査においては、ただ強いと弱いに分けているだけで、いったいどの程度の強さとどの程度の弱さであるかははっきりされていない¹⁾。
- (4) 日本語における感謝に関する研究は、他の言語との比較も含め、かなりの成果を収めているものの、これまでの研究には日韓の対照研究などはあるが、日中及び日中韓の三カ国語を比較対照したものは見受けられない。

3 本研究の目的及び研究方法

3.1 本研究の目的と本研究で扱う感謝

日本語と中国語と韓国語における感謝を表す表現の使用実態を調査することによって、それらの言語における感謝を表す表現の特質を明らかにすると同時に、そのような表現の使用を規定する要因について解明を試みることを本研究の目的とする。

そして本研究では、相手に何かしてもらった時の感謝、つまり相手にかけた負担によって自分が利益を受けた時の感謝をその研究の対象とする。(従って、ウェートレスが注文の料理を運んでくれた時のような、相手が社会的役割の規定する範囲内の当然のことをしてくれた時の感謝等は、本研究で扱う感謝に含めない。)

3.2 研究方法

本研究の研究方法としては、アンケート調査法をとったが、調査は質問紙を用いて行った。質問紙では、1) 与えられた各状況において、被調査者が感謝の気

¹⁾ 例えば三宅(1994b)等

持ちを表すのにどのような表現を用いるかを自由回答形式で記述してもらい、2) それぞれの状況における心理状態を調査するために、感謝・詫び・挨拶・その他の種類の心理を設定し、被調査者に複数選択してもらった。

3.2.1 被調査者と調査期間

1998年8月から1998年10月にかけて、日本語・中国語・韓国語をそれぞれ母語とする日本人・中国人・韓国人の大学生を対象にアンケート調査を行った。(詳しくは表1参照)

	人 数	身 分	大 学 名	平均年齢	年齢の幅
日本人	30名(男15、女15)	大学生	関西地域の国公立大学	21.0歳	19歳－25歳
中国人	30名(男15、女15)	大学生	中国人民大学(北京)	20.7歳	19歳－22歳
韓国人	27名(男12、女15)	大学生	世明大学(堤川) ハンドン大学(仁川)	21.9歳	19歳－28歳

表1 被調査者に関する情報

3.2.2 アンケート項目

アンケート項目としては、5つの場面にそれぞれ6人の相手を合わせて設定し、30のアンケート項目を作成した。詳しくは以下の通りである。

3.2.2.1 相手設定

まず、相手を親疎の程度によって「ウチ」、「ソト」、「ヨソ」に分け、更にそれを上下関係(主に年齢的な上下関係)によって「目上」の人と自分とはほぼ同じ年代の「同等」の人に分けて、以下の表2のように筆者自身が設定した。これは三宅(1994a)を参照にし、「ウチ」、「ソト」、「ヨソ」の概念に関しては、三宅(1994a)を援用している²⁾。

	ウ チ	ソ ト	ヨ ソ
目上	母親(母)	50－60代の先生(先生)	50－60代の見知らぬ人(見上)
同等	同年代の親しい友達(親友)	同年代のそれほど親しくない友達(疎友)	同年代の見知らぬ人(見同)

表2 相手の設定

²⁾ ウチ：身内又は関係が親密な人、ソト：親密ではないが自分に関係のある人、ヨソ：その場限りの接触を持つ人

3.2.2.2 場面設定

利益と負担の大中小の組合わせによって、5つの場面を設定した。利益と負担においては様々な種類(肉体的、精神的、経済的)があると思われるが、本研究では主に肉体的観点と経済的観点から利益と負担の大中小を捉えた。詳しくは以下の通りである³⁾。

場面1：(コンタクト場面)うっかり落としてしまった片方のコンタクトを相手が一緒に探して見つけてくれた。

場面2：a(チケット場面)うっかりして相手の所に忘れてきた飛行機のチケットを相手が空港まで届けてくれた。b(オートバイ場面)溝に落ちてしまったオートバイを相手の人が手伝って出してくれた。

場面3：(財布場面)電車を降りる時、財布(中には10万円入っている)の置き忘れを教えてもらった。

場面4：(松葉杖場面)足をくじいたので松葉杖について電車に乗ったところ、相手の人が席を譲ってくれた。

場面5：(ハンカチ場面)ハンカチを落したのを教えてもらった。

以上を表3にまとめて以下に示す。

利益	負担	大	中	小
大		場面2		場面3
中			場面1、場面4	
小				場面5

表3 場面設定の具体的な内容

3.2.2.3 心理状態調査

感謝・詫び・挨拶・その他の種類を合せて設定し、複数選択してもらった。特に感謝と詫びにおいては、それぞれ5段階の程度を合わせて設定した。(詳しくは図1参照)

³⁾ 精神的な利益や負担は、人によって個人差が大きく、計り難いと思われるので、本研究では触れないようにした。

このように言った時のご自分の気持ちを以下から選択して○を付けてください(複数選択も可)

1 () 感謝(どの程度か最も近いものの数字を○で囲んでください)

非常に弱い	やや弱い	普通	やや強い	非常に強い
1	2	3	4	5

2 () 謝罪(どの程度か最も近いものの数字を○で囲んでください)

非常に弱い	やや弱い	普通	やや強い	非常に強い
1	2	3	4	5

3 () 挨拶(特に感謝や詫びの気持ちはないが、挨拶として何か表したい)

4 () その他(ご自由に書いてください)

図1 心理状態調査項目

4 結果と分析

4.1 表現の分類と出現数

アンケート調査により得られた資料に基づいて、日中韓における言語表現をそれぞれ大きく「感謝表現」、「詫び表現」、「その他の表現」に分類したが、以下は三宅(1994b)を参考に筆者が作成したものである⁴⁾。

感謝表現：基本的に感謝のことばと考えられ、それぞれの言語において普段よく使われている表現。

例 日本：ありがとう、助かった、サンキュー等9種類865回

中国：謝謝(ありがとうございます)、感謝(ありがとうございます)等9種類725回

韓国：감사합니다(ありがとうございます)、고맙습니다(ありがとうございます)等14種類835回

詫び表現：基本的に詫びのことばと考えられ、それぞれの言語において普段よく使われている表現。

⁴⁾ 本研究では、三宅(1994b)の感謝表現及び詫び表現の定義はそのまま援用しているものの、それぞれの概念の指す範囲は三宅のと異なる。

例 日本：すみません、ご迷惑をかけました等 7 種類420回

中国：不好意思(恥ずかしい、恐れ入ります)、麻烦了(迷惑をかけました)等 6 種類104回

韓国：미안합니다(すみません)、죄송합니다(申し訳ありません)等 6 種類58回

その他の表現：感謝表現にも詫び表現にも含まれない表現。(その他の表現の下位分類は表 4 を参照)

		日本人	中国人	韓国人
事態への言及	相手又は問題への重要性	無くしたら大変な所だった、全財産入っていったんだ等 5 種類14回	你不来我可怎么办呢？(あなたが来なかったら私どうしたでしょう)、不然这个月喝西北风了(じゃなかったら私今月ご飯も食べれなかった)等 6 種類13回	그 돈 잃어버리면 큰 일 나요 (そのお金無くしたら大変なことになるところだったんだ) 혼자면 못 끼겠을거예요 1 (一人だったら無理だったわ) 等 7 種類 42 回
	理由の説明・弁明	気が付かなかった、うっかりしていた等 2 種類 4 回	不小心掉了(不注意で落としました)、记性不好(記憶がよくない)等 4 種類 7 回	제가 오토바이 초보자라서(私バイクの初心者なので)、자주 떨어져요 (よく落ちます) 等 5 種類 6 回
気持ちの表明	自責	あほやね私、私鈍臭いやらう等 2 種類 3 回	我太粗心(私大雑把だから)、瞧我，总是忘东西(ほら、私っていつも忘れ物するんだ)等 8 種類28回	제가 정신이 없어서(わたし慌てていたから)、내 정신 좀 봐 (ほら、この私を) 等 7 種類 16 回
	決心	今度から忘れない、無くさないようにするわ等 2 種類 8 回	下次…(次に…) 1 種類12回	다음에는 조심할게요 (これから注意します)、앞으로 잘 챙길게 (これからちゃんとします) 等 3 種類 8 回
	自分の気持ちの表出	よかった、うれしい等 8 種類31回	太好了(よかった)、今天运气还好(今日はついでいる)等16種類24回	큰 일 날뻔했다(怖かった)、제가 할텐데 왜 하셨어요 (私がやるのにどうしてしたんですか) 等 12 種類 35 回

働きかけ	相手をほめる	優しいな 1種類1回	你真好(あなたはいい人で すね)、你真行(あなたは よくできたもんだ)等3種 類17回	역시 엄마야 (やっぱりお母 さんだ)、다른 애먼 가져갈 지도 모르는데 (他の人だつ たら持って帰ったかも) 等 11種類 15回
	冗談	無	怎么不早告诉我(もっと早 く言ってくれ)、不用说谢 了吧(感謝は要らないで しょう) 等5種類6回	나 왜 이렇게 덩벙거리나, 엄 마 다했나 (私こんなにお ちよこちよいなのは母に似 ているからかな)、시키지도 않은 일을 다 하네 (頼んで もないのにするなんて) 等13種類 15回
	返恩	ご飯でもお ごる等3種 類6回	下次请你吃饭(次にごはん でもおごる)等3種類6	식사라도 함께… (食事でも 一緒に…) 等18種類 69回
	相手への 思いやり	気を付けて 帰ってくだ さい、時間 大丈夫等5 種類10回	让你找这么久了(時間取り ました)、你走好(気をつ けて帰ってください)3種 類3回	이렇게 고생하셔서 어찌조 (こんなに迷惑をかけてどう しよう)、힘드시죠 (大変で しょう) 10種類 37回
挨拶		そうだ等7 種類36回	是(はい)等5種類8回	그래(そう)等18種類38回

表4 その他の表現の下位分類及びその具体例

4.2 アンケート調査の結果とその分析

分析に当たっては主に、言語表現の平均使用回数、言語表現パターン、言語表現使用時の心理という3つの視点から分析を行った。3つの分析の視点においてはまた、以下のようにそれぞれ相手ごとと場面ごとに分けて分析を試みた。

4.2.1 日中韓における言語表現の平均使用回数

4.2.1.1 言語表現の測定方法

まず本研究における言語表現の測定方法について述べるが、例えば一人の被調査者が「すみません、ありがとう、これから気をつける」と言った場合、それぞれ詫び表現1個、感謝表現1個、その他の表現1個に数えた。このように数えた

言語表現数を被調査者の人数で割って、言語表現の平均使用回数とした。

4.2.1.2 感謝表現の平均使用回数

全体として、日本人の感謝表現の平均使用回数は中国人と韓国人に比べ高かった。日本人は0.96であるのに対し、中国人と韓国人はそれぞれ0.804と0.925であった。特に相手が「母」である場合、日本人の平均使用回数は0.68であるのに対し、中国人と韓国人はそれぞれ0.246と0.32であった。中国人と韓国人は相手が「母」である場合、主にその他の表現を使用し、また何も言わないと答えた人が多かった。(詳しくは崔(1998)を参照。以下同様)

4.2.1.3 詫び表現の平均使用回数

相手ごとと場面ごととも日本人は中国人と韓国人に比べ、詫び表現を顕著に多く使用している。そして図9に見るように、日本人の詫び表現の使用は場面ごとより相手ごとに差が大きく現れるが、中国人と韓国人の詫び表現の使用は場面ごとに差が大きく現れる。

相手ごとに、日中韓とも相手が「先生」である場合、詫び表現を多く使用している。具体的に a 日本人は相手が「先生」と「ヨソ」の関係の人である場合詫び表現を多く使用し、相手が「母」である場合詫び表現の使用が少ない。b 韓国人は相手が「先生」と「母」である場合詫び表現を同程度多く使用している。c 中国人は相手が「先生」である場合詫び表現を顕著に多く使用している。

場面ごとに、日中韓とも相手にかかる負担の大きい場面に詫び表現を多く使用

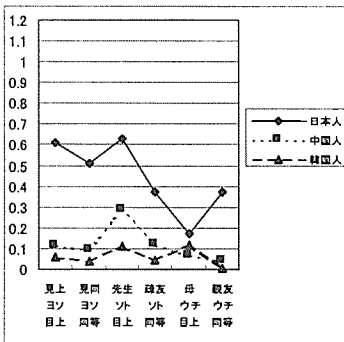


図2 相手ごとに見る詫び表現の平均使用回数

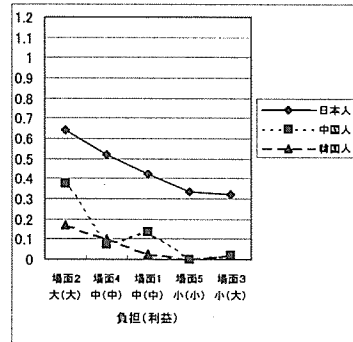


図3 場面ごとに見る詫び表現の平均使用回数

している。しかし相手にかかる負担が小さい場面においても日本人は詫び表現をたくさん使用しているのに対し、中国人と韓国人はほとんど詫び表現を使用しない。(以上図2と図3を参照)

4.2.1.4 その他の表現の平均使用回数

全体として、日本人のその他の表現の使用回数が顕著に低く、韓国人のその他の表現の使用回数が顕著に高い。そして日中韓とも相手が「うち」関係の人である場合、その他の表現を多く使用している。具体的に、日本人は「自分の気持ちの表出」の「ほんと」、「よかった」を圧倒的に多く(40%)使用し、中国人は「自責」や「自分の気持ちの表出」を多く使用し、韓国人は「返恩」を多く使用している。(以上表4と図4と図5を参照)

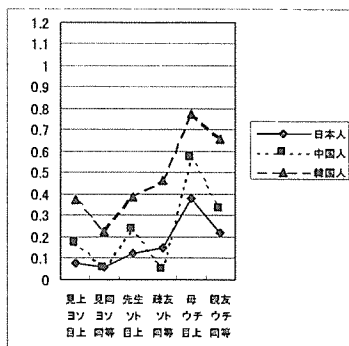


図4 相手ごとに見るその他の表現の平均使用回数

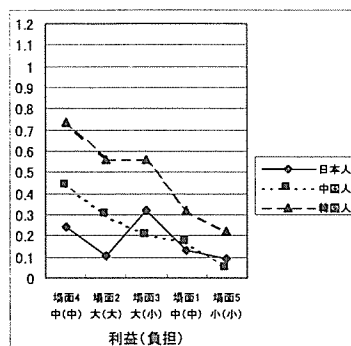


図5 場面ごとに見るその他の表現の平均使用回数

4.2.2 言語表現パターン

まず、言語表現パターンの数え方について述べるが、本研究では言語表現の重複と順番に関係なく数えた。例えば、被調査者が「ありがとう」と答えた場合でも、「ありがとう、サンキュー」と答えた場合でも、両方とも「感謝表現」パターンとして数えた。そして被調査者が「ありがとう、よかった、よかった」と答えた場合、それは「感謝+その他」の表現パターンとして数えた。

図6に見るように、日本人は主に「感謝表現」パターンと「詫び表現の入った」言語表現パターン(「詫び+感謝」表現パターンが多い)を使用するのに対し、中国人と韓国人は主に「感謝表現」パターンを使用し、「詫び表現」の入った言

語表現パターンはあまり使用しない。このことから日本人が詫び表現を多用する事実が顕著になっている。

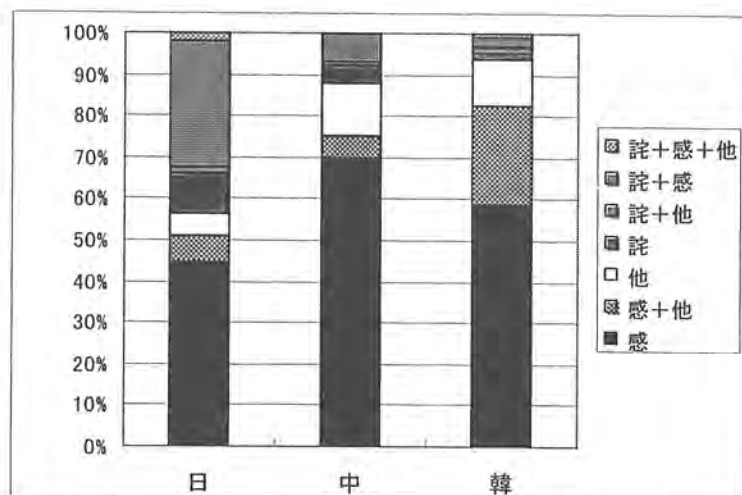


図6 日中韓における言語表現パターン

4.2.3 言語表現時の心理

心理状態の調査においては主に、被調査者の感謝表現時と詫び表現時の心理状態を調査するために、「詫び表現」パターンと「詫び+その他」の表現パターンで答えた人の心理と「感謝表現」パターンで答えた人の心理について考察を試み、以下の結果を得た。

4.2.3.1 「詫び表現」パターンと「詫び+その他」の表現パターンで答えた人の心理

(1) 相手ごとの心理

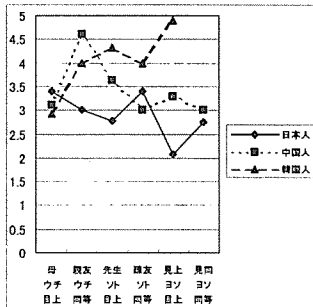


図7 相手ごとに見る詫び表現時の感謝心理得点

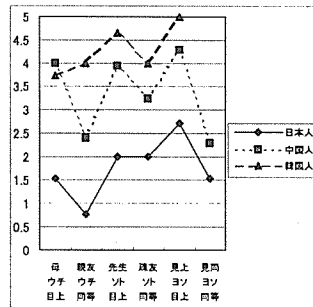


図8 相手ごとに見る詫び表現時の詫び心理得点

全体として、日本人は主に感謝の心理を持っているが、中国人と韓国人は感謝の心理程度と詫びの心理程度がほぼ同じである。また日本人の詫びの心理程度は全体として、中国人と韓国人に比べ低い。具体的に a 日本人は相手が「見知らぬ目上の人」である場合詫びの心理程度が高く、相手が「親友」である場合詫びの心理程度が低い。b 中国人は相手が「目上」の人である場合詫びの心理程度が高く、相手が「同等」の人である場合詫びの心理程度が低い。c 韓国人は相手が「先生」と「見知らぬ目上の人」である場合詫びの心理程度が高い。(図7と図8を参照)

(2) 場面ごとの心理

場面ごとにおける日本人の詫びの心理程度は、全体として中国人と韓国人に比べ低い。具体的な違いとしては、日本人は「場面3」(財布場面)等において、ほとんどの相手に詫び表現を使用するのにも関わらず詫びの心理はほとんど持っていない(0.36)。しかし中国人と韓国人は「場面3」においては、ほとんど「母」にだけ詫び表現を使用しているが、その時の詫びの心理程度は高い(それぞれ3.3と4.5)。(詳しくは崔(1998)と表5を参照)

	日 本 人	中 国 人	韓 国 人
感謝の心理得点	2.44 (3.45)	3.08 (2.3)	3.01 (2.0)
詫びの心理得点	1.96 (0.36)	3.64 (3.3)	4.08 (4.5)

表5 詫び表現時の日中韓の感謝と詫びの心理の得点(()の中は場面3における感謝と詫びの心理得点)

4.2.3.2 「感謝表現」パターンで答えた人の心理

日中韓にはそれほど大きい差が見られなかったので、以下にまとめて報告する。全体として、日中韓とも主に感謝の心理を持っている。具体的には、中国人の詫びの心理程度に違いが見られ、相手が「母」の時詫びの心理程度がもっとも高く、また相手が「目上」の時「同等」の時より詫びの心理程度が高い。(表6を参照)

	日 本 人	中 国 人	韓 国 人
感謝の心理得点	3.97	3.59	3.63
詫びの心理得点	0.84	1.1	1.67

表6 感謝表現時の日中韓の感謝と詫びの心理の得点

4.3 考察

以上本研究では、日中韓における感謝を表す表現と、そのような表現をする時の心理状態について調査したが、調査を通して以下のような点が明らかになった。

(1) 日本人は感謝を表す際、中国人と韓国人に比べ多くの表現を使用する(日本人の言語表現の平均使用回数は1.63であるのに対し、中国人と韓国人はそれぞれ1.16と1.47である)。

(2) 日本人はほとんど決まった形式の表現(本研究で扱う感謝表現、詫び表現)を使用しているのに対し、中国人と韓国人は、その他の表現も多く使用し、表現の仕方も豊富である。

特に相手が「母」である場合、日本人は主に感謝表現を使用しているのに対し、中国人と韓国人は主にその他の表現を使用している。

(3) 言語表現パターンにおいて、中国人と韓国人は主に「感謝表現」パターンを使用しているが、日本人は主に「感謝表現」パターンと「詫び表現」の入った言語表現パターンを多く使用している。

(4) 感謝表現においては、日中韓ともそれほど違いが見られなかった。それは感謝表現の表現パターンは日中韓とも決まって使用されているからだと思われる。

(5) 日中韓で最も違いが見られたのは詫び表現においてである。全体として、a 日本人は中国人と韓国人に比べ顕著に詫び表現を多く使用している。しかし詫び表現使用時における詫びの心理程度は中国人と韓国人に比べ低い。b 日本語における詫び表現は全相手と場面に使用されているが、中国語と韓国語における詫び表現は、相手にかける負担の大きい場面にだけ使用され、相手にかける負担の小さい場面においてはほとんど使用されない。

次に各言語における詫び表現の使用状況と、詫びの心理程度の対応状況について詳しく考察してみる(詳しくは図9を参照)。a 日本人は相手が「見上」と「疎友」である場合は詫び表現と詫びの心理程度がほぼ一致しているが、相手が「先生」・「見同」・「親友」の場合、詫びの心理程度は詫び表現の使用程度に比べ低い。(本論文で使用している「見上」、「見同」、「疎友」などの概念に関しては表2を参照。以下同様)そして相手が「母」である場合、詫び表現の使用は少ないが、詫びの心理程度は「親友」に比べ高い。b 中国人は「先生」にだけ詫び表現を多く使用しているが、「先生」に対する詫びの心理程度も高い。そして相手が「母」や「見上」の人である場合、詫び表現の使用は少ないが、詫びの心理程度は高い。c 韓国人は「先生」と「母」に対して詫び表現を多く使用しているが、「先生」にだけ詫びの心理程度が高く、「母」に対しては詫びの心理程度も感謝の心理程度も低い。

以上のようなことから、日本語における詫び表現は、相手にかける利益や負担の大小以上に相手との親疎・上下関係に関与し、「母」のような身内以外(「先生」や「見知らぬ人」等)の人に多用され、多くの場合心理の直接的反映ではないことが分る。それに比べ中国語と韓国語における詫び表現は、まず相手にかける負担の大小に関係し、日本語のように感謝を表す表現として定着しておらず、各場面における被調査者の心理の直接的反映として使用されていると言えよう。

相手が「先生」と「母」である場合、日中韓における詫び表現の使用と詫びの心理程度には大きな違いが見られた。日本において「先生」はただ自分と何らかの関係を持つ目上の人にしき認識されていないのに対し、中国と韓国において「先生」は常に尊敬すべきである特別な地位にある者として意識されているからだと考えられる。これは中国と韓国における儒教思想の根深い影響だと考えられ、興味深い。そして中国語と韓国語においては、相手にかける負担の小さい場面のうち、「場面3」(財布の場面)の「母」にだけ詫び表現が使用されている。これはうっかりして一ヵ月の生活費をなくしてしまいそうだった自分のミスを、母に

許してもらいたい気持ちからの発言だと考えられるが、中国と韓国において、母はいつでも絶対的な目上の存在として意識されているからである。しかし以上は、大学生のみを対象に行なった今回の調査だけでは言い切れないので、今後更に調査が必要であろう。

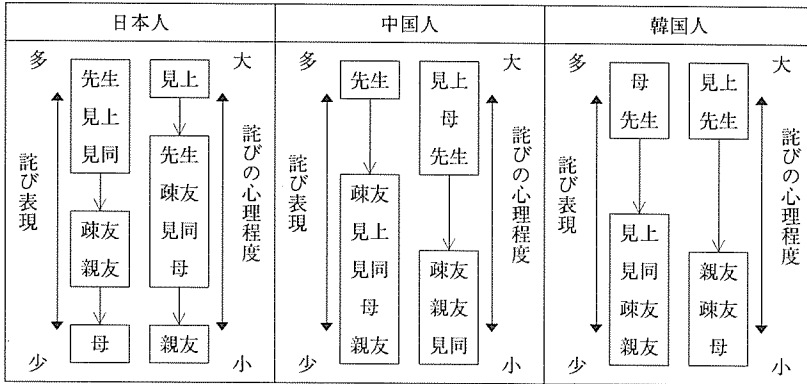


図9 日中韓における詫び表現の使用と詫びの心理程度

以上のことから日中韓における感謝を表す表現の使用はそれぞれ、一歩下がった低い姿勢で取り組むことを評価する日本社会の社会的規範と、その場面その場面に応じた自分の気持ちを表すことを優先とする中国・韓国社会の社会的規範、深い儒教思想影響下の中国・韓国社会における「先生」に対する特別な位置づけ及び母に対する絶対的な目上意識等によって規定されていることが分った。そしてこのような違いによって、日中韓には常に桃敬(1991)で言及したような、相手を「失礼」に思ったり、相手の言語表現を「物足りない」と思ったりするコミュニケーションギャップが起こるのではないだろうか。

5 まとめ

本研究は、日中韓における感謝を表す表現とそのような表現の使用を規定する社会的要因についての解明を目的に行ったものである。

研究を通して、日中韓における感謝を表す表現の仕方、及びそれぞれの表現を使用する時の心理状態は異なっていることが明確になった。特に日本人の感謝を表す表現の仕方は、中国人と韓国人に比べ大きく異なっていることが浮き彫りに

なったが、これは日中韓における感謝を表す表現の使用を規定する社会的規範と「先生」や「母」に対する意識の違いに起因するものであることが分った。そして本研究の結果からは、中国人と韓国人の差はあまり出てこなかったが、それは中国語と韓国語においては、詫び表現が感謝を表す表現として定着されていないからだと考えられる。しかし、感謝を表す表現の仕方は違っているものの、日中韓とも感謝の気持ちと詫びの気持ちを持っていることが分った。

今後は更に社会言語学的に、質的に研究を深めていきたいと考えている。アンケート調査においても、今回は大学生だけを対象にしたが、今後は社会人も考慮に入れて、被調査者を年代別、性別等に分けて調査する予定である。そして生のデータを採集し、より一層被調査者の心理状態を把握するために、インタビュー等も行って幅広く深い分析を進めていくつもりである。

主要参考文献

- 生駒知子(1993)「感謝を表す際の陳謝表現：『借り』と対話者の社会的地位との関係」『日本語教育学会春季大会予稿集』
- 小川治子(1995)「感謝と詫びの定型表現」『日本語教育』85号
- 生越まりこ(1994)「感謝の対照研究－日朝対照研究－」『日本語学』13-7 明治書院
- 崔信淑(1998)「感謝を表す表現とその心理に関する日中韓対照研究」 大阪大学大学院言語文化研究科 修士学位論文
- 彭飛(1990)『外国人を悩ませる日本人の言語慣習に関する研究』和泉書院
- 三宅和子(1994a)「『詫び』以外で使われる詫び表現－その多様化の実態とウチ・ソト・ヨソの関係－」『日本語教育』82号 日本語教育学会
- (1994b)「感謝の対照研究」『日本語学』13-7 明治書院
- (1993)「感謝の意味で使われる詫び表現の選択メカニズム－Coulmas(1981) indebtedness 『借り』の概念からの社会言語学的展開－」『日本語教育論集』8号 筑波大学留学生センター